

ホロスはギリシャ語で全体の意 ヒトを部分として見るのではなく、
 その全体性を重視し心身の健全な調和を目指す健康法

《リウマチ治療の進歩》

近藤クリニック院長 近藤高志

新たな治療戦略

医学の進歩は日進月歩で、時に多くの患者さんを救う新薬が登場し従来の治療戦略が塗り替えられる大変革がもたらされてきました。例えば半世紀前になりますが、それまで多くの人々を苦しめていた結核は抗結核薬の登場によって服薬で治るようになりました。また今年には新型インフルエンザが流行していますが、数年前に開発された新薬タミフルの内服が極めて有効で、インフルエンザに対する治療戦略に欠かせない新薬です。さらに今年12月、あるいは来年1月にはインフルエンザに対するさらに新しい薬の発売が予定されています。



インフルエンザ治療におけるタミフルと同じように、リウマチの治療戦略にパラダイムシフト（基本的枠組みの変更）が起きています。

リウマチの原因

リウマチの究極の原因は未だ不明です。ただ、最近分子レベル、即ち細胞の活動に不可欠な細胞間の情報を伝達する分子（サイトカイン）の研究が急速に進んでいます。その中で、関節細胞に炎症を引き起こす原因となるTNF-アルファという分子が特定されてい

ます。そしてTNF-アルファをターゲットとする抗体が開発され、これが新薬として承認を受けて治療に用いられるようになったのです。

何故リウマチ患者さんの場合、関節にTNF-アルファ分子が多量分泌されるようになるのかは不明ですが、リウマチ関節炎はTNF-アルファ分子に対する抗体を注射することによって鎮静化することが確かめられたのです。

リウマチの新しい治療薬

リウマチ治療に登場した4つの新薬は何れも注射薬です。

- エンブレル（皮下注射薬）：2005年より
 エンブレルの作用機序は図-1のように、関節内に多く分泌されているTNF-アルファに注射薬が結合し、TNF-アルファが関節細胞を刺激するのをブロックして関節炎を鎮静化します。
 エンブレルは週2回の皮下注射が必要なことから、患者さんが自分で注射する手技を習得して自宅で自己注射しながら治療を行います。

関節リウマチの状態 エンブレルの作用のしくみ



図-1

リウマチ治療の進歩

リウマチにおいても3~4年前から新たな治療薬（注射薬）が試みられ、その優れた治療効果が報告されています。今までにない良好な治療成績が得られた結果、イ

- レミケード（点滴注射薬）：2003年より
- ヒュムラ（皮下注射薬）：2008年より
- アクテムラ（点滴注射薬）：抗IL-6レセプター抗体・2008年より

リウマチはどんな病気

- ・30~50歳の女性に多い
 リウマチは30~50歳の女性に多く、女性は男性の3倍です。閉経前の女性に多いのはホルモンと関係しているためと考えられています。このため閉経が終わった高齢婦人の発症率を見ると男女差が際立たなくなります。
- ・複数関節の腫れや痛み
 手指、手首、膝など複数の関節の腫れや痛みが慢性的に進行していく原因不明の難病です。
- ・自己免疫疾患の一つで長い経過
 ・関節炎の原因は自己の免疫細胞が自分自身の関節細胞を異物とみなし攻撃するためであり、激しい痛みのみならず、関節が変形してしまう、さらに骨をも破壊してしまう疾患です。
- ・罹患率が高い病気
 現在日本に60~70万人のリウマチ患者さんがおられます。この値から推察すると当院（中野）周



辺に3000人から5000人程度となります。リウマチは治りにくい疾患の中で発生頻度が高く、つらい病気である点などが一般の方々にも知られています。当院にもリウマチ患者さんがおいでになっておられます。

- ・診断が大切
 リウマチは比較的多い疾患であるため、「関節が痛む怖い病気、歩けなくなる治らない病気」などある程度リウマチについて知られており、ご自身がリウマチになったのではなかろうかと不安感を抱いて来院される方がもっと多く来られるので、リウマチであるか否かを最初に診断することが重要です。
- ・リウマチの診断
 リウマチの診断は比較的容易で、症状、レントゲン、採血などで判定します。



症 状：関節の腫れや痛み。起床時に手指が腫れて動かしにくい。
 レントゲン検査：関節の炎症所見、骨の破壊像
 血液検査：
 リウマトイド因子(RF)・リウマチの80%で陽性
 抗CCP抗体・リウマチの90%で陽性、早期患者でも陽性反応が検出されるため、早期診断に役立つ。
 血沈(赤血球沈降速度)の亢進・リウマチ活動性の目安。
 CRP(炎症反応)・CRPが2以上の時、活動性が高いと判断される

リウマチの経過は長い

リウマチはその疾患活動性が時に激しく、時に鎮静化しながら長い経過をたどります。経過中の波打つような炎症のために手指、手首、膝などの関節のはれと痛みを引き起こします。最も恐れられている経過とは関節が強く曲がってしまったり、さらにひどい場合は脱臼したままの状態に至ったりする悲惨な関節炎の進行です。

関節炎が進行する時期

リウマチの恐ろしい経過はこれまで発症初期にはゆっくりであると考えられてきました。つまり従来の考え方では5~10年と長期間経過した時期に急速に関節炎が進行するので関節破壊、関節変形、骨破壊も長期間経過した時期に出現すると考えられてきたのです。
 しかし、最近の研究の結果によるとむしろ逆であり、最初の1~3年間で関節の炎症が進行しており、早期に骨破壊を引き起こしていることも観察され、5~10年後に見ていたのはその結果であるとの知見が得られています。

関節破壊は早期から進行

